

サツキ 晴れ

Satsuki bare

2024
No. 14

07

CONTENTS

- 01 Cure治療支援のおはなし
- 02 Care療養支援のおはなし
- 03 地域医療を知ろう
- 04 連携病院・診療所紹介
- 05 各種健康講座の開催について
- 06 みよし市民病院を支えるチーム紹介
- 07 みよし市民病院は60周年を迎えた

院長
メッセージ

人生の最終段階について、思いをめぐらせたことはありますか。自分らしく人生を全うするには、最終段階にどんな医療やケアを受けるか考えておくことが重要です。今回の特集では、ACP(人生会議)について取り上げ、当院の考え方や取り組みを紹介しました。ご自身やご家族のこれから的人生に関わる問題、ぜひご一読ください。

SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED plus+
病院を
知ろう

人生の最終段階まで
チームで支えていきたい。
ACP(人生会議)特集

みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

ご自由に
お持ち
ください

INFORMATION

みよし市民病院は、今年60周年を迎えました!

2024年、みよし市民病院は開設60周年を迎えました。

これを記念して、今秋60周年病院祭を開催予定です。

皆さんに楽しんでいただける一日になるよう、今後、プロジェクトメンバーが趣向をこらしたイベントを検討します。どうぞご期待ください。

開催日・プログラムは決まり次第
ホームページ等でご案内いたします。

<https://hospital-miyoshi.jp/>



みよし市民病院

検索



INFORMATION



みよし市民病院
開設55周年
「みんなの病院感謝祭
～今日は病院へ
遊びに行こう♪」
の様子

みよし市民病院の理念 みよし市を愛し、みよし市民の健康に寄与することを誓います。

基本方針

- 1 患者さんの尊厳を重視し、公正な医療を行います。
- 2 思いやりと、心のふれあいを大切にした医療を行います。
- 3 常に医療の進歩に目を向け、質の向上に努めます。
- 4 市民の皆さんに信頼される医療を行います。
- 5 地域医療の向上を目指し、保健・福祉との連携を図ります。



病院広報WEBマガジン

みよし市民病院からの最新TOPICSや
病気の基礎知識・検査・
ケアに関する情報などを
お届けします。ぜひご覧
ください。



サツキ
晴れ

LINE(公式)アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE
(公式)アカウントを開
設しました。QRコードか
ら「友だち追加」をお願
いいたします。



みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地
TEL 0561-33-3300
<https://www.hospital-miyoshi.jp/>

サツキ
晴れ

発行責任者／院長 伊藤 治
発 行／みよし市民病院 広報グループ
記事提供／中日新聞広告局
編集協力／プロジェクトリンク事務局
発行日／2024年2月

SPECIAL REPORT

人生の最終段階まで チームで支えていきたい。

ACP(人生会議)特集

患者さんの身体機能が衰えても、
小さな幸せを叶えてあげたい。



BACK STAGE

人生の最期まで寄り添う 医療の必要性。

●一般に、病院の評価は手術の件数や病床利用率、平均在院日数などの指標で判断される。しかし、超高齢社会が進む今、病院の評価のあり方も〈患者の最期の幸せにどこまで貢献できたか〉というところにもっと照準が当てられてもいいのではないか。

●みよし市民病院はその部分に

いち早く着目し、継続ケアと在宅療養支援を重視し、ACPの実践にも力を注いでいる。その先駆的な取り組みにこれからも注目していきたい。



人生の最期の瞬間まで 自分らしく生きるために。

人生100年時代に入り、65歳の定年を迎えるも、それから20年、30年の年月を生きていくのが当たり前になってきた。

そんな人生の最終段階に関して近年注目されているのが、ACPである。ACPはアドバンス・ケア・プランニングの略称。前もって計画する(アドバンス)お世話になることを(ケア)・会議とも呼ばれている。一般にACPといふと、〈意識がなくなったときに心肺蘇生や延命治療を望むかどうかを決めておく〉ことが焦点があたりがちだが、実際はそれだけではない。みよし市民病院の事業管理者、成瀬達医師は次のように説明する。

「ACPは最期の瞬間まで、その人らしく生きていくための計画です。ですから70代、80代、90代でそれぞれどんなことをやりたいかを考え、自分の望む人生の最終段階の過ごし方を決めて、周囲の人たちに伝えておくことが基本になります」。

成瀬の考え方に基づき、同院ではACPの取り組みに力を注いでいる。具体的には講演会などで市民へACPの実践法を紹介しているほか、院内の認知症委員会でACPをテーマに取り上げ、多職種みんなで患者へのアプローチ法を検討。その一環として、昨年からすべての入院患者や家族に〈アドバンスケアシート〉を手渡し、人生の

最終段階の希望を記入してもらう試みもスタートした。「これはもちろん、答えていただけの方だけでいいのですが、患者さんのがいを聞き取ることで、多職種で情報共有してアクションに繋げるよう努力しています。たとえば、「病院よりも住み慣れたわ

い」という希望のある場合、どんな課題をクリアすれば家に帰れるかを多職種で検討し、早くから準備しなくてはなりません。高齢者の場合、入院初日が最もADL(日常生活動作)が高く、入院期間が長くなるほど衰えていきます。入院中に認知機能が低下し、自己決定能力がなくなる可能性もありますから、一日でも早くACPについて話し合いを始めた方がいいと考えています」(成瀬)。

患者さんの最期の幸せまで 支える病院としてこれからも。

CHAPTER 02
同院がACPに積極的に取り組んでいる背景には、超高齢社会における病院の役割が変化し、〈治す医療〉から〈治し支える医療〉へと転換してきたことが挙げられる。そして、〈治し支える医療〉の軸となるのが、急性期から回復期、在宅療養までを切れ目なく、多職種が連携してサポートしていく継続ケアの体制である。 「たとえば、患者さんが在宅療養を望んでも、ご家族がどうお世話をされると尻込みされるケースもあります。そんな場合、当院では訪問診療や看護、訪問リハビリテーションの機能を使い、継続してサポートしていくことができます。ご家族にとって在宅介護は大変なことですが、やれるだけのことをやって見送ることができた」と思つていただけたら、それは素晴らしいことですし、応援したいと思います」と成瀬は話す。

同院はもともと、急性期医療を中心と

する他の自治体病院とは異なり、人生の最終段階のケアまで視野に入れ、命を救う急性期から回復期、慢性期、そして在宅療養までをカバーできるようにつくられた市民病院である。ACPの実践は同院にとって、まさに必然的な取り組みであり、超高齢社会の進展に伴い今後ますます重要な課題になっていくだろう。では同院の職員たちは、これから、どんなことを大切に考え、ACPを実践していくのでしょうか。 「人生の最終段階では誰でも病気を患い、身体機能が弱り、ヨロヨロと過ごすことになります。そのとき、患者さんがどんな生活を望んでいるのかを把握することがますます必要です。そして、患者さんの「ゴールにある小さな幸せ」を多職種で共有し、ほんの少しの小さな幸せを感じてもらえる医療やケアを提供していくこと。そのためこれからも、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士など全職種が力を合わせて、市民の皆さん的人生を支えていきたいと思います」(成瀬)。

COLUMN
 ●「どんな最期を望むか」と聞かれると、多くの人は「ピンピン口りがない」と答える。しかし、その望みが叶うのはほんの一握り。ほとんどの人は病気を患い、誰かの世話をになりながら長く生きることになる。
 ●その要介護の期間をどのように過ごすか、前もって準備することはとても大切である。女性は2人に1人、男性は4人に1人が90歳まで生きる時代。できるだけ早くACPについて家族で話し合つておくことが重要だろ。

Cure 治療支援の おはなし

月に2回、定期的に患者さんのご自宅を訪問するのが「訪問診療」です。

在宅医療では「訪問診療」と「往診」という二つの用語が使われます。このうち、訪問診療は通院が困難な方に対して、医師が定期的にご自宅を訪問し、診察や処方、療養上の管理や指導をさせていただきます。

当院で実施している訪問の頻度は、基本的に月に2回。訪問する医師は、入院や外来で診ていた主治医が担当することが多く、それまでの病状の変化を踏まえた上で継続的な治療を提供しています。また、以前からよく知っている医師が訪問するので、ご家族から「安心して在宅療養を始められた」という声も多く寄せています。

在宅療養中に急変したとき医師が急遽、訪問するのが「往診」です。

定期的に訪問する訪問診療に対し、緊急で訪問する場合は「往診」になります。たとえば、在宅療養中に急変したり、食事が摂れなくなったりした場合など、訪問看護師から報告を受けて当院の主治医、もしくは代理の医師ができるだけ速やかにご自宅を訪問。必要な医療処置を行ったり、薬を処方したりしま



Message



みよし市訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所
ケアマネジャー・看護師
岩井瑞穂

多職種のスタッフが連携して、在宅療養を支えています。

地域の高齢化に伴い、外来受診が難しく、訪問診療や往診を希望する患者さんは年々増えています。当院のデータでは、訪問診療や往診の件数は6年前に比べると約2倍になっており、各診療科の医師が分担して患者さんのご自宅を訪問しています。

当院の訪問診療・往診の特徴は、同じ病院内にみよし市訪問看護ステーション、みなよし地域包括支援センター、訪問リハ

ビリテーションの各施設を備え、緊密に連携しているところにあります。医師を中心に、訪問看護師、訪問リハビリテーションスタッフ、ケアマネジャーなどが患者さんの情報を共有することで、適切な医療を提供し、安心して在宅療養していただいています。当院ではこれからも患者さんとご家族の思いに寄り添い、人生の最終段階までしっかりとサポートしていきたいと考えています。



冬の健康管理①

暖かい室内から寒い室外への、急な移動に気をつけましょう。

Care 療養支援の おはなし

退院後もトレーニングを継続して、日常生活の自立をめざします。

訪問リハビリテーションは、身体機能の維持・回復や日常生活の自立をサポートするために、患者さんのご自宅を訪問して行うリハビリテーションです。当院では令和元年(2019年)、理学療法士1名体制でスタート。現在は理学療法士3名に増員して、市内各地の患者さんのご自宅を訪問しています。

リハビリテーションの内容は、歩行、寝返り、起き上がり、立ち上がりなどの訓練や、食事、排泄、着替えなどの生活動作訓練、麻痺側の関節可動域の訓練など…。リハビリテーションの時間は40~60分で、週1~3回、定期的に訪問して訓練を行います。

生活上の困りごとに合わせて、動作の改善をめざします。

訪問リハビリテーションのメリットは、生活の場で患者さんが何に困っているか、どんなことをしたいかをダイレクトにお聞きして訓練できるところです。というのも、退院前にしっかり準備しても、いざ自宅に帰ってみると、以前と違って不便に思うところがいろいろ出てくるからです。たとえば「トイレの立ち上



がり動作がむずかしい」「キッチンに立つのが思ったよりつらい」「洗濯物を干しにくい」…など。そうした困りごとを一つひとつ確認しながら、日常生活動作の改善をめざしていきます。

また、「散歩したい」「買い物に行きたい」という希望があれば、実際に家の外に出て周辺を歩く訓練も行っています。歩行能力や体力を高めることで、生活の楽しみや社会参加の機会を増やすお手伝いをすることも、訪問リハビリテーションの大きな役割です。



Message



理学療法士
新川弥生

もっと多くの方に訪問リハビリテーションを知ってほしいです。

訪問先では、ご本人やご家族からさまざまな相談をいただきます。たとえば、最近多いのが、嚥下機能(食べ物を飲み込む動作)のご相談です。私自身は理学療法士なので専門外になりますが、院内の言語聴覚士からアドバイスを受けながら、嚥下体操や発声練習のお手伝いをさせていただいています。自分でできることは限られますが、患者さんの困りごとに精一杯

応えるととても喜んでいただけるので、大きなやりがいを感じています。

訪問リハビリテーションはまだまだ認知度が低く、通院できなくなった時点でリハビリテーションを諦めてしまう方もいらっしゃるようです。でも、トレーニングを続けることで確実に身体機能や日常生活動作は改善するので、ぜひ多くの方に利用してほしいと思います。



冬の健康管理②

睡眠をしっかりとり、自律神経の乱れを防ぎましょう。

地域 医療 を 知ろう

今回のおはなし

ACP (人生会議)



まだ元気なうちに「自分らしい人生の終わり方」について話し合っておきませんか。

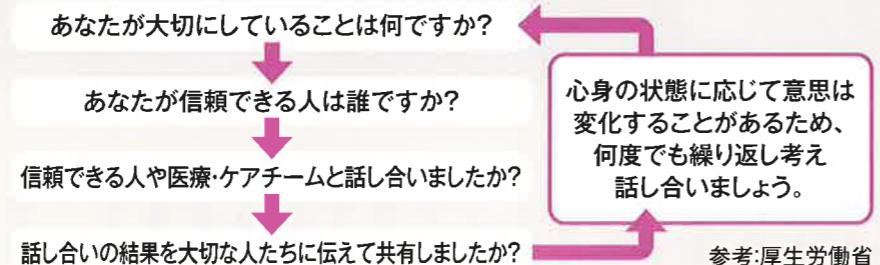
ACP(アドバンス・ケア・プランニング:人生会議)は、人生の最終段階に、自分がどのような医療やケアを望むかを前もって考え、信頼する人たちと繰り返し話し合う取り組みです。

私たちは誰でも高齢になつたり病気を患つたりすると、医療や介護サービスを受けることになります。そのとき、どんなサービスを受けるかは、本人の自己決定能力があることが前提ですが、年をとれば知力も衰え、認知機能も弱まります。認知症は80代の前半で人口の約20%、後半になると40%になるともいいます。そうなる前に、最期のときをどのように迎えるか、周囲の人々と話し合っておくことがとても大切です。

当院では認知症委員会が中心となってACPの取り組みを進めています。元気なうちに、自分らしい人生の終わり方を考えることは、これからの日々を悔いなく生きることに繋がります。ぜひ一度、ご家族で話し合ってみませんか。



話し合いの進め方(例)



参考:厚生労働省

Our Partner

連携病院・診療所紹介

医療法人 おかもとクリニック



消化器内科・内科・外科を中心に幅広い範囲の病気に対してプライマリーケアを行っています。

愛知県豊田市にあるおかもとクリニックは、「良質な医療を身近で手軽に受けてもらえる診療所づくり」を診療理念におき、消化器内科・内科・外科を中心に幅広い範囲の病気に対してプライマリーケアを行っています。

院長の専門分野である消化器疾患に関しては経鼻内視鏡などの機器も備えており、吐き気もなく、心身ともに苦痛の少ない検査を受けていただくことができます。

また、薄毛・抜け毛の治療、予約制のアンチエイジング外来(シミ・しわ・たるみ、医療脱毛、痩身マシンなど)も行っております。

病気やけがでお困りの際は、お気軽に受診のうえ、ご相談ください。



DATA

医療法人 おかもとクリニック

〒470-0374 愛知県豊田市伊保町下川原97-2

TEL 0565-45-3020

URL <http://www.okacli.com/>



冬の健康管理③

散歩、ウォーキング、ストレッチなど、体を動かし温めましょう。

TOPICS

市民の方を対象に、各種健康講座を開催しています。

楽しみながら健康の知識を!当院の医療職がわかりやすくお伝えします。

当院では、市民の方を対象に、各種健康講座を開催しています。この講座では、当院の医師、看護師、リハビリスタッフが、日々の健康を保つためのポイントや病気の基礎知識、予防などの情報を、スライドなどを用いてわかりやすくお伝えしています。皆さんに楽しみながら知識を深めていただくことをモットーにしていますので、ぜひ、ご自身の健康管理にお役立てください。

2023年度開催例

- 認知症講座(年4回:5/17、8/16、11/15、2/15)
- 糖尿病教室(年4回:4/25、7/25、10/24、1/23)
- 地域健康講座(11/8)
- 市民講座【小児の感染症とワクチンについて】(12/18)
- ロコモティブシンドロームのお話と運動(1/30)

開催情報は以下でご紹介しています!

- 当院ホームページ

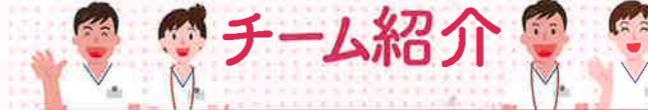
お知らせ
ブログ
「やわたやまの日記」

- サツキ晴れ
公式LINE

公式LINE



みよし市民病院を支える チーム紹介



防災災害対策委員会

防災機能強化を図るために多職種で活動。
いざという時の安全・安心を守る。

当院では、月に1回、多職種からなる防災災害対策委員会を開催するほか、年に4回、防災訓練を行っています。具体的な訓練内容は、緊急時のメール連絡や安否確認を含む年3回の基本訓練と、年1回の大規模地震や火災などを想定した避難訓練です。

訓練時には、災害アクションカードを活用します。これは、緊急時用に各課に常に掲示されているもので、限られた人員と医療資源でできるだけ効率的に緊急対応を行うための指針となるカードです。避難訓練以外にも、患者さんの搬送、ト



リアージ(傷病の緊急性や重症度に応じて治療優先度を決める)、炊き出し、火災時の放水訓練など、さまざまな状況を考慮した訓練が行われています。

災害による被害や対応すべき内容が変化するため、防災マニュアルも常に最新の情報に更新しています。このように防災災害対策委員会の役割は多岐にわたりますが、安否確認や患者さんの迅速かつ安全な搬送のため、そして市民病院として医療救護活動にも対応できるよう、委員をはじめとした職員全員が協力して防災に取り組んでいます。



冬の健康管理④

バランスよい食事は、免疫力アップや体を温めるのに役立ちます。